

児童手当 認定請求書															提出年月日		※受付確認年月日		※認定番号						
高石市長 あて															令和 . .		令和 . .								
請 求 者	①フリガナ		②住所 (法人の主たる事務所の所在地)			〒 高石市 丁目 番 号 1月1日の住民登録地 □上記と同じ 都・道・府・県 市 1~5月分は前年1月1日時点、6~12月分は本年1月1日時点の住所					③性別		男・女												
	氏名 (法人等)		④個人番号			⑥加入している年金 ア. 厚生年金保険 ※アのうち、以下の共済組合員である場合は括弧内に○を記入してください。 ( )私立学校教職員共済 ( )国家公務員共済 ( )地方公務員等共済 イ. 国民年金保険 ウ. その他 ( )					⑦職業		ア. 被用者 イ. 公務員 ( ) ウ. 被用者等でない者												
⑤生年月日		昭和 年 月 日 平成 年 月 日			⑧振込先口座		銀行・農協 信用金庫 信用組合		店番 (3ケタ)		種目		口座番号 (7ケタ)		口座名義 (請求者名カタカナ)										
□公金受取口座を利用する □振込口座を指定する		支店出張所		普通																					
配 偶 者 等	⑨有無		⑩フリガナ			⑪生年月日		同居別居		1月1日の住所		⑬職業		ア. 被用者 イ. 公務員 ( ) ウ. 被用者等でない者											
	有・無		氏名			昭和・平成 年 月 日		同居・別居		□請求者の住民登録地と同じ 都・道・府・県 市 1~5月分は前年1月1日時点、6~12月分は本年1月1日時点住所 ⑭別居の場合の住所															
⑫個人番号																									
⑮ 児 童 の 兄 姉 等	(フリガナ)		続柄		生年月日		監護相当の有無		生計負担の有無		同居・別居の別		別居の場合の住所及び個人番号		海外留学をしている場合の出国年月		「監護相当の有無」及び「生計負担の有無」がいずれも「有」の場合は、本請求書と併せて「監護相当・生計費の負担について確認書」をご提出ください。 (児童の兄弟等と児童の合計人数が3人以上の場合に限る。)								
	氏名				平成 年 月 日		有・無		有・無		同・別				平成 年月										
				平成 年 月 日		有・無		有・無		同・別				平成 年月		児童の兄弟等 18歳に達する日以後の最初の3月31日から22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者									
⑯ 児 童	(フリガナ)		続柄		生年月日		監護の有無		生計関係		同居・別居の別		別居の場合の住所及び個人番号		海外留学をしている場合の出国年月		※児童との関係で、該当する場合に○印		※第3子以降の児童○印		※3歳未満の児童○印		※3歳以上高校修了前の児童○印		
	氏名				平成 年 月 日		有・無		同一・維持		同・別				平成 年月		・未成年後人 ・父母指定者 ・同居父母								
					平成 年 月 日		有・無		同一・維持		同・別				平成 年月		・未成年後人 ・父母指定者 ・同居父母								
					平成 年 月 日		有・無		同一・維持		同・別				平成 年月		・未成年後人 ・父母指定者 ・同居父母								
					平成 年 月 日		有・無		同一・維持		同・別				平成 年月		・未成年後人 ・父母指定者 ・同居父母								
扶養親族等及び児童の数 人		うち70歳以上の同一生計配偶者及び老人扶養親族の合計数 人		譲渡所得の有無 有・無		所得の状況 円		認定・却下		認定・却下年月日 令和 . .		支給開始年月 令和 . .		区分		手当月額		第3子以降分 円		3歳未満分 円		3歳以上高校修了前分 円		合計 円	
控除		⑰令和 年分所得の合計額		うち児童手当法施行令第3条第1項による控除 給与所得/公的年金等所有を有する場合の控除額 (一律控除額)		雑損控除額 円		医療費控除額 円		小規模企業共済等掛金控除額 円		障害者控除額 円		障害者・ひとり親・勤労学生控除額 円											
受給者		円		円		80,000円		円		円		円		円		円		円		円		円		円	
配偶者		円		円		80,000円		円		円		円		円		円		円		円		円		円	

(裏面)

注意

- 1 ①の欄は、請求者が個人である場合は氏名を、法人である場合は法人名及び代表者氏名を記入してください。
- 2 ②の欄は、請求者が個人である場合は住民票上の住所を、法人である場合は主たる事務所の所在地を右欄に記入してください。  
また、請求者が個人であり、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村（特別区を含みます。以下同様です。）に住所を有していた場合は、当該住所を左欄に記入してください。
- 3 ④の欄は、請求者が個人である場合のみ12桁の個人番号を記入してください。
- 4 ⑥の欄は、⑯の欄に3歳に満たない児童がいる請求者に限り、請求の日における公的年金制度の加入の状況について、次により記入してください。  
ア 加入している公的年金制度について、「ア」から「ウ」までのいずれか該当するものを○で囲んでください。「ウ」を○で囲んだ場合は、（ ）内にその年金の名称を記入してください。  
イ 「ア」を○で囲んだ場合で、第四種被保険者又は高齢任意加入被保険者（これらの者が保険料を自ら全額負担している場合に限り、）であるときは、当該欄の余白に「四種」又は「高任」と記入してください。
- 5 ⑪の欄は、請求者及び配偶者の前年（1月から5月までの月分については、前々年をいいます。）の所得についての市町村民税又は特別区民税の総所得金額、退職所得金額、山林所得金額、土地等に係る事業所得等の金額、長期譲渡所得金額及び短期譲渡所得金額（譲渡所得に係る特別控除を受けた場合は、その額を控除した額）並びに先物取引に係る雑所得等の金額、特例適用利子等の額、特例適用配当等の額、条約適用利子等の額並びに条約適用配当等の額の合計額を記入して下さい。
- 6 ③、⑤、⑥、⑦、⑨及び⑩の欄は、請求者が法人である場合は記入する必要はありません。
- 7 ⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭及び⑰の欄は、2人以上で児童を養育（監護し、かつ、生計を同じくするか又は生計を維持することをいいます。以下同様です。）している場合に記入してください。「配偶者等」とは、児童を養育をする配偶者、未成年後見人等をいいます。なお、配偶者には、児童を懐胎した当時婚姻の届出をしていないが、請求者と事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含みます。  
⑫の欄は、配偶者等が他の市町村に住所を有する場合に住民票上の住所を上欄に記入してください。また、配偶者等が本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に上欄と異なる市町村に住所を有していた場合は、当該住所を下欄に記入してください。
- 8 ⑮の欄は、⑯の欄に記載する児童の兄弟等のうち、18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 9 ⑮の「監護相当の有無」の欄は、監護に相当する日常生活上の世話及び必要な保護をしている場合には、有を○で囲んでください。
- 10 ⑮の「生計費の負担の有無」の欄は、⑯の欄に記載した子が受給者の収入により子の日常生活の全部又は一部を営んでおり、かつ、これを欠くと通常の生活水準を維持することができない場合には、有を○で囲んでください。例えば同居であって子の学費や家賃・食費等の生計費の一部を親が負っている場合、別居であって親が学費や生計費の一部を仕送りしている場合等が該当します。
- 11 18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子が海外に留学している場合は、⑯の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。
- 12 ⑯の欄は、請求者が養育をする18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 13 児童が海外に留学している場合は、⑯の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。
- 14 ⑯の「生計関係」の欄は、次によって記入してください。  
ア 「同一」は、児童が請求者自身の子である場合や請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合で、請求者がその子と生計を同じくしているときに○で囲んでください。  
イ 「維持」は、児童が請求者自身の子でない場合で、請求者がその子の生計を維持しているときに○で囲んでください。
- 15 この請求書には、次の書類を添えて提出してください。なお、当該書類により証明すべき事実を公簿等（マイナンバー制度による情報連携を含みます。）によって市町村長（特別区の区長を含みます。）が確認することができるときは、当該書類は省略することができます。  
ア 児童又は児童の兄弟等が他の市町村に住所を有する場合は、その児童の住民票の写し又は住民票記載事項証明書であって、その児童が世帯主である場合にはその旨、その児童が世帯主でない場合には世帯主との続柄が記載されたもの  
イ 児童が海外に留学している場合は、当該児童が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類  
ウ 児童が請求者自身の子であり、請求者がその児童と別居している場合は、請求者のその児童に対する養育の状況を明らかにすることができる書類  
エ 請求者が未成年後見人である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類  
オ 請求者が父母指定者である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類  
カ 児童が請求者自身の子でない場合は、父母とその児童との養育関係及び請求者とその児童との養育関係を明らかにすることができる書類（請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合を除く。）  
キ 生計を同じくしない配偶者等と別居し、児童と同居している場合は、当該事実を明らかにすることができる書類  
ク 請求者に配偶者がある場合には、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村に住所を有していた場合は、請求者又は配偶者の前年（1月から5月までの月分については、前々年をいいます。）の所得の額についての市町村長の証明書  
ケ ⑯の欄に3歳に満たない児童がいる請求者が被用者であるときは、当該事実を明らかにすることができる書類  
コ ⑮の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合は、⑮の欄に記載した子に係る監護相当・生計費の負担についての確認書  
サ ⑮の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合に、⑮の欄に記載した子が海外に留学している場合は、当該子が日本国内に住所を有しなくなった日の前日

備考

1. ④及び⑰の欄を除き、必要があるときは、所要の変更又は調整を加えることができる。
2. 受給資格者に周知することにより、注意事項を省略することができる。